

閉塞性動脈硬化症

メタリックシンドロームと

メタリックシンドロームの成り果ては動脈硬化。この動脈硬化、心臓の血管だけにおきるわけではない。生活習慣の不摂生は、心臓に限らず体中の血管に平等にダメージを与えていく。中でも注意すべきは足の動脈硬化。そこで今回は、最悪の場合「切断」の可能性もある閉塞性動脈硬化について、専門医に解説してもらう。

最悪切断も／侮れない脚の動脈硬化



早期発見、国レベルで考えるべき

「人間の体内を流る血液の量は、心臓から動脈の出口で約1分間に10リットル、静脈の入口で約10リットル、つまり1分間に約20リットル。この血液が、心臓から動脈を流れて、全身の細胞に酸素と栄養を届け、静脈を流れて心臓に戻る。この循環が、私たちの生命を維持している。ところが、生活習慣の不摂生により、血管が硬化し、狭窄し、最終的には閉塞（閉ざり）してしまう。これが閉塞性動脈硬化症である。特に足の血管が閉塞すると、脚の痛み、冷え、潰瘍、さらには切断に至ることもある。早期発見と適切な治療が、生活の質を大きく変える。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが重要である。」

専門医に聞く
 大木教授は、健康診断にあまり関心がない人、動脈硬化の早期発見に気づいていない人が多い。早期発見は、足の血管を閉塞させないことが重要である。専門医に相談し、適切な治療を受けることが大切である。

軽症なら食生活の改善、禁煙、運動や薬で
 進展しても切らずに治せるカテーテル治療など様々な選択肢がある。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが大切である。

「撲滅運動キャンペーン」に取り組んでいます。メタリックシンドロームの撲滅を目指す。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが大切である。

「撲滅運動キャンペーン」に取り組んでいます。メタリックシンドロームの撲滅を目指す。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが大切である。

「AB1検査」やエコー検査が普及すれば早期発見に。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが大切である。

メタリックシンドロームの危険因子は「血管病の発症要因に喫煙を加えたもの」。専門医の指導のもと、適切な治療を受けることが大切である。